

# 平成 27 年度 市民意識調査結果概要

## 1 調査概要

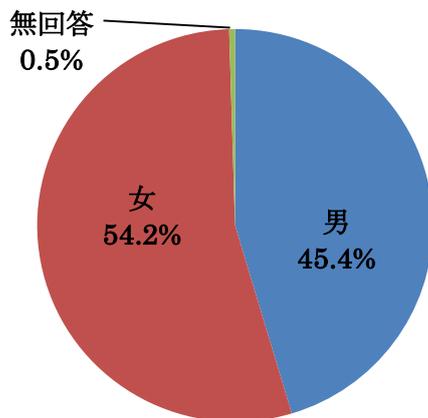
【調査時期】平成 27 年 5 月～6 月

【配布数】2,000 件（18 歳以上の市民の皆さまから系統抽出）

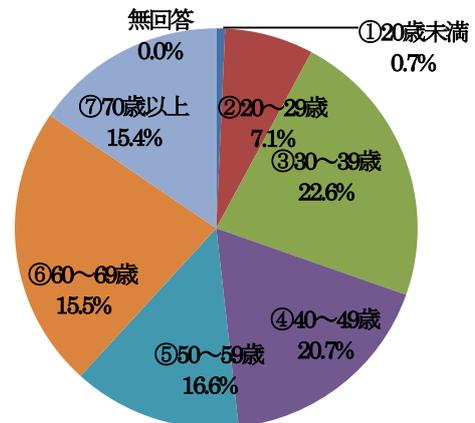
【回答数】421 件

【回答率】21.05%

【性別内訳】



【年齢内訳】



## 2 調査結果

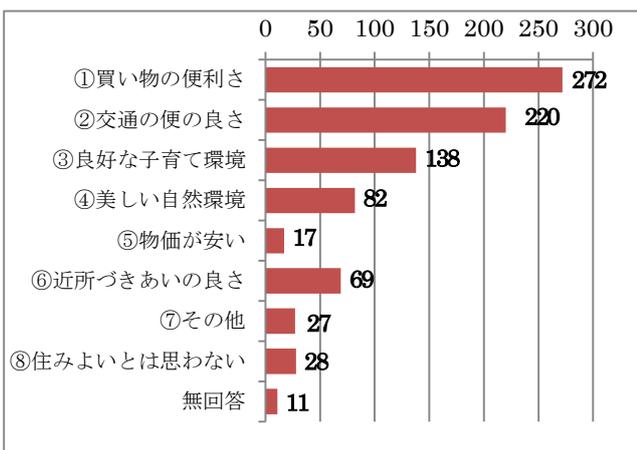
### (1) 住みよさ・住みにくさ

豊見城市に対して、住みよいと思うところをあげる回答が多く、その内訳としては「買い物の便利さ」、「交通の便の良さ」が特に多い結果となった。これは昨年の調査結果と同じである。

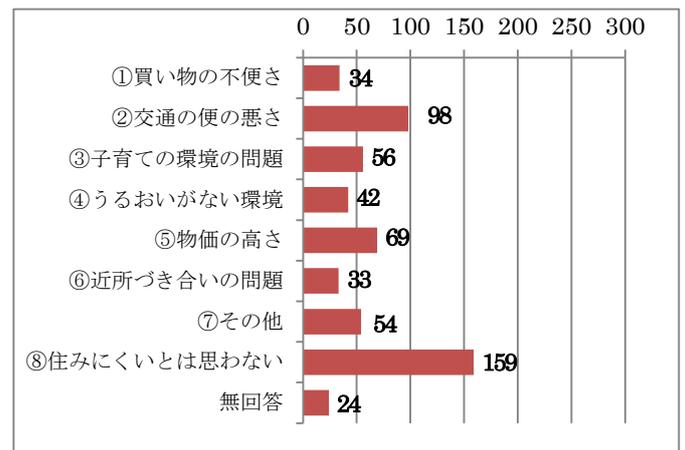
また、住みにくいと思うところでは、昨年と同じく「住みにくいとは思わない」との回答が最も多かった。次いで「交通の便の悪さ」、「物価の高さ」の順に続き、昨年 3 番目に多かった「子育ての環境の問題」を「物価の高さ」が上回った。

交通の便については住みよさ、住みにくさ両方で上位となっている。これについては、自由記入欄の記載等からすると、那覇市へのアクセスが容易である点や自動車道のインターチェンジがある点が評価されている一方、道路工事の長期化や渋滞の多さについての不満が感じられる。

【住みよいと思うところ（複数回答可）】（件数）



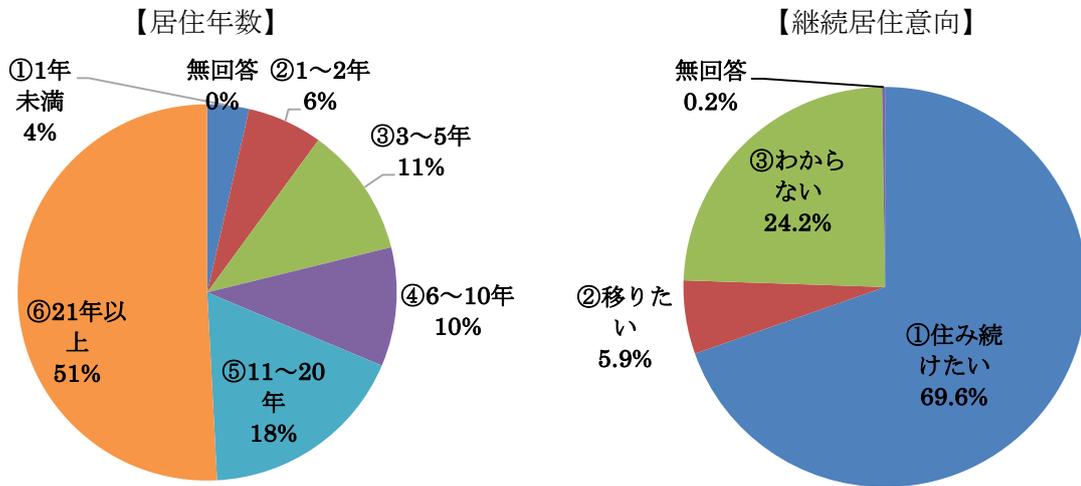
【住みにくいと思うところ（複数回答可）】（件数）



(2) 居住年数・継続居住意向

居住年数については、「21年以上」の回答が51%と1番多く、次いで「11～20年」、「6～10年」の順となった。

継続居住意向については、「住み続けたい」の回答が69.6%となり、昨年から2.5%増加した。



(3) 各施策における満足度・重要度

本市が現在取り組んでいる施策(42項目)ごとに対する満足度(現在の取組状況に関する満足度)と重要度(今後取り組むべき重要度)について、度合いに応じた5～1の数字を選択していただき、それを評価ポイントとした上で当該施策の総回答件数で割った平均値を評価点とした。

【度合区分表】

満足度					重要度				
満足	やや満足	普通	やや不満	不満	重要	やや重要	普通	あまり重要でない	非重要
5	4	3	2	1	5	4	3	2	1

満足度・重要度の全体的な評価としては、満足度評価平均点2.87、重要度評価平均点3.86となり、満足度は「普通」を少し下回り、重要度は「やや重要」を少し下回る結果となった。

各施策における満足度については、昨年の調査結果と同じく、「水の安定供給」が最も高く次いで「農業の振興」、「消防と救命救急体制の充実」が高い結果となった。反対に満足度が低い施策としては、「公共交通サービスの維持・向上」が最も低く、次いで「道路網等の整備」、「雇用の安定と促進」となっている。

次に重要度については、昨年と同じく「子育て環境の充実」が最も高く、次いで「義務教育の充実」、「幼児教育の充実」となっており、教育・子育て分野に対する市民ニーズが特に高い結果となった。一方「県外・国際交流の促進」、「市民相互の交流促進」は昨年と同じく重要度が低い結果となった。

【満足度】

	順位		施策名	満足度 評価点
	今年	昨年		
上位	1	1	水の安定供給	3.29
	2	2	農業の振興	3.12
	3	3	消防と救命救急体制の充実	3.02
	4	7	製造・物流業の振興	3.02
	5	6	観光・リゾート産業の振興	3.00
平均点				2.87
下位	38	38	公害問題への対応	2.71
	39	40	子育て環境の充実	2.70
	40	41	雇用の安定と促進	2.68
	41	42	道路網等の整備	2.60
	42	39	公共交通サービスの維持・向上	2.58

【重要度】

	順位		施策名	重要度 評価点
	今年	昨年		
上位	1	1	子育て環境の充実	4.26
	2	3	義務教育の充実	4.25
	3	4	幼児教育の充実	4.24
	4	5	保健・医療体制の充実	4.16
	5	2	雇用の安定と促進	4.12
平均点				3.86
下位	38	36	水産業の振興	3.51
	39	37	コミュニティの振興	3.50
	40	41	男女共同参画社会の形成	3.47
	41	40	市民相互の交流促進	3.45
	42	42	県外・国際交流の促進	3.34

次に、各施策において、満足度が低くかつ重要度が高いと評価された（満足度と重要度の隔たりが大きい）施策については、「子育て環境の充実」が最もその差が大きく、次いで「道路網等の整備」、「幼児教育の充実」と続いている。昨年最も差の大きかった「雇用の安定と促進」については、4番目となっている。

一方、昨年12位だった「公共交通サービスの維持・向上」については、5位に浮上しており、満足度と重要度の隔たりが大きくなっている。

【満足度・重要度のギャップ】

順位	順位		施策名	満足度－重要度
	今年	昨年		
1	2	2	子育て環境の充実	▲ 1.57
2	3	3	道路網等の整備	▲ 1.49
3	4	4	幼児教育の充実	▲ 1.48
4	1	1	雇用の安定と促進	▲ 1.44
5	12	12	公共交通サービスの維持・向上	▲ 1.40

次に、各施策における重要度と満足度の対前年度比の順位については、次のとおりとなっている。

【満足度対前年度】

	順位		施策名	満足度 対前年度
	今年	昨年		
上位	1	1	水産業の振興	0.03
	2	2	義務教育の充実	0.02
	3	3	生活保護	0.02
	4	4	スポーツ・レクリエーションの振興	0.01
	5	5	製造・物流業の振興	0.00
平均点				▲ 0.06
下位	38	38	高齢者福祉	▲ 0.11
	39	39	下水道の整備	▲ 0.13
	40	40	平和行政の推進	▲ 0.13
	41	41	水の安定供給	▲ 0.15
	42	42	公共交通サービスの維持・向上	▲ 0.20

【重要度対前年度】

	順位		施策名	重要度 対前年度
	今年	昨年		
上位	1	1	平和行政の推進	0.05
	2	2	男女共同参画社会の形成	0.01
	3	3	公共交通サービスの維持・向上	0.00
	4	4	自然環境の保全と活用	0.00
	5	5	環境衛生対策の推進	▲ 0.01
平均点				▲ 0.08
下位	38	38	水産業の振興	▲ 0.16
	39	39	新産業の育成・創出	▲ 0.16
	40	40	防災体制の整備と国民保護への対応	▲ 0.16
	41	41	観光・リゾート産業の振興	▲ 0.19
	42	42	雇用の安定と促進	▲ 0.20

(3) 各施策における満足度・重要度の相対分布

満足度を Y 軸（縦軸）、重要度を X 軸（横軸）にとり、各施策の満足度・重要度の座標点を基に分布図を作成し、平均値を基準としたクロス分析を行った。

平均値の基準線を基に満足度・重要度の高低により各施策を 4 つの区分に分け、今後の施策の取組方針として整理した。

【区分別今後の施策方針】

①満足度【低】・重要度【高】

市民の満足度を高めるため、重点的に改善を要する施策

②満足度【高】・重要度【高】

市民の満足度を維持、またはさらに高めるため、重点的に現状を維持しながらもより効率的な事業執行を要する施策

③満足度【高】・重要度【低】

市民の満足度を維持するため、社会情勢の変化に注視しながら現状を維持し続けることを要する施策

④満足度【低】・重要度【低】

社会情勢の変化に注視しながら、施策の見直しを含む事業改善を要する施策

【満足度・重要度の相対分布図】

